

平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立宍道小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○「話す・聞く」の領域の正答率が県平均+14.1と高かった。 ●記述式問題に取り組むことに抵抗は少ないが、必要な情報を選んだり文章を比べながら読む力が弱い。また文章をまとめることも苦手の傾向がみられる。 ●図に対応させながら読む力ことに抵抗がある。	・学校図書館を活用した授業を通して、情報を伝えたり、自分の考えや思いを表現したりするための表現力をつける。 ・新聞記事を活用して感想をまとめる活動を継続するとともに、文章を見てまとめることにも取り組む。
	算数	○「知識・理解」と「技能」については、ある程度定着しているものと思われる。 ●解決の方法を説明したり、記述したりする力が弱い。	・基礎内容の反復練習を継続する。 ・図と文と式をつなぎながら互いに説明し合う活動を取り入れた授業に努める。 ・解決の方法について説明したり、記述したりする活動を継続する。
6年	国語	○話す・聞く、書くなどの力は身についている。 ●読む力が弱い。	・読み取ったことから感想や意見を交流させる。 ・読書の啓発をする。
	算数	○計算力はまずまず身についている。 ●数量関係が弱い。また公式を忘れていて、面積が求められない。	・割合や面積などの問題を通して、言葉の式や図で表しながら数量関係をとらえるようにする。

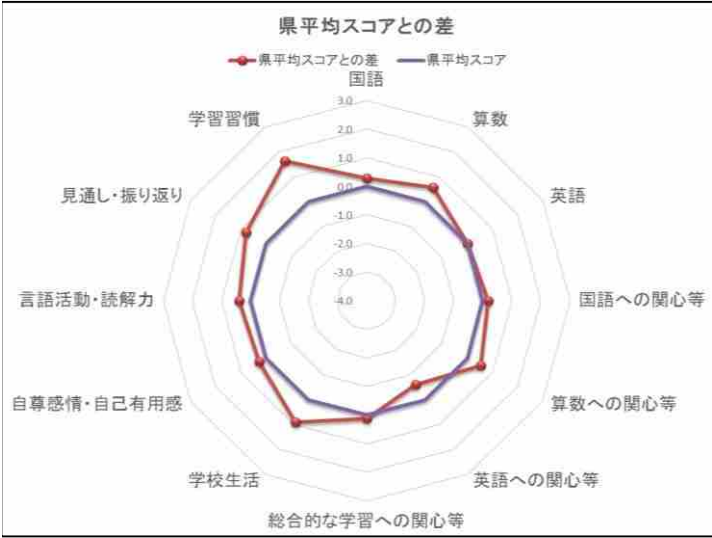
(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

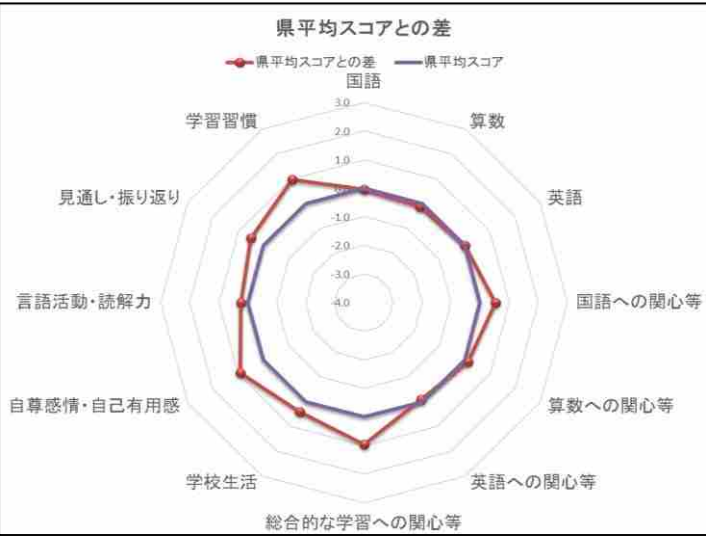
		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○将来の夢や目標をもっている子が比較的多い。 ●地域や社会への関心も県平均は上回ってはいるものの実際の意識は低い。 ●グループでの調べ学習をしたと感じている子が少ない。	・子どもたちの視野が狭いことがうかがえるので、キャリア教育で将来への夢や希望をもたせる活動を取り入れたり、総合的な学習の時間の充実を図ることで地域や社会にも目を向けるようにする。 ・個人での調べ学習が多かったので、グループでの活動も取り入れる。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習や読書の習慣がついている。 ●比較的メディアへの接触は少ないものの、平日に4時間以上使用している子の頻度はかなり高い。	・メディアに関する授業を継続するとともに、メディア接触の多い子には個別に支援を続ける。 ・自分の力になる自主学習ができるように支援する。
6年	授業改善に関わる事項	○授業で話し合い活動をする機会が多いと感じている一方、グループによる調べ学習は少ないと感じている。 ○将来への夢や希望をもっている子が比較的多い。 ●学校図書館を活用した授業を好む子の割合が県平均よりも低い。	・学校図書館との連携を強化し、調べ学習の充実を図る。 ・授業の進め方を工夫し、グループでの話し合いや調べ学習も取り入れる。
	家庭学習に関わる事項	○家庭で学校の授業の復習をする児童の割合が多い。 ●家庭で1時間以上の学習に取り組む子が少ない。	・家庭学習の評価を工夫して行い、意義を再認識させ、意欲的な取り組みを継続する。 ・家庭学習の内容をより充実させる。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



6年



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	68	68
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数
5年生 48 人

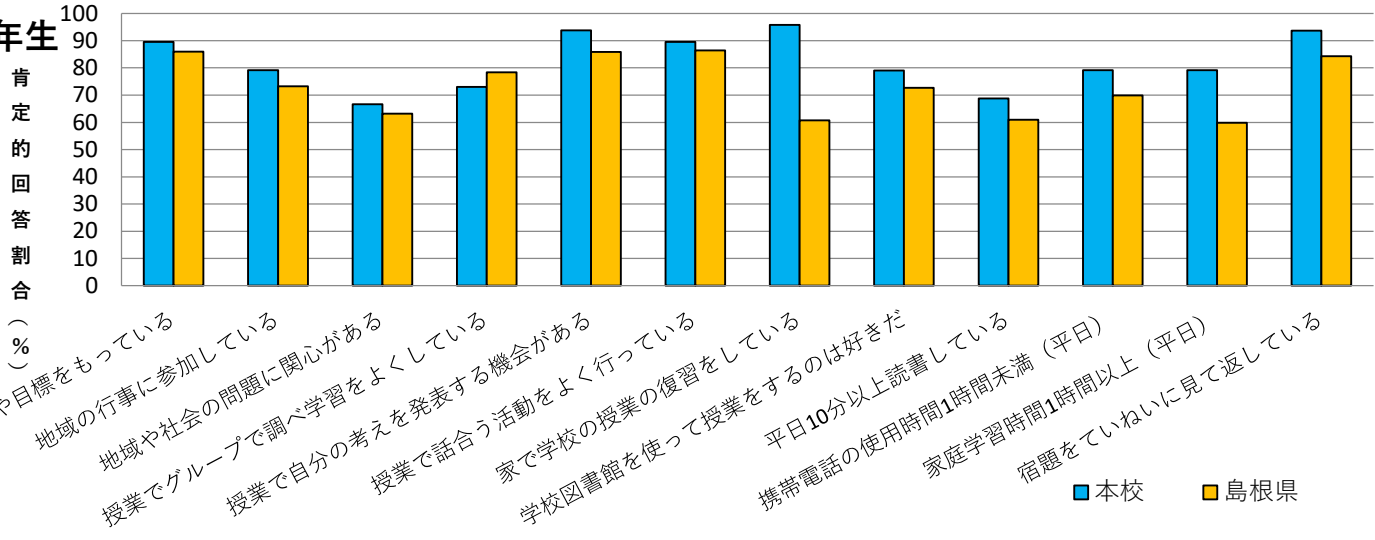
各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	66	56
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数
6年生 34 人

5年生



6年生

